

生ごみ減量をお手伝いする制度

**EMぼかし
の無料配布**

専用の密閉容器を使い、EM菌の働きで生ごみを堆肥化するEMぼかしを登録制で無料配布しています。

対象は、市内に住民登録がある世帯です(1世帯1登録)。

登録は、クリーン課、市民部市民サービス課、大仁支所地域振興課の窓口でできます。

EMぼかし



* 専用容器はホームセンター等でご購入ください。

**生ごみ処理機
の購入費補助**

購入金額の1/2(機械式生ごみ処理機は30,000円、生ごみ堆肥化容器は3,000円まで)を補助します。

対象は、市内に住民登録があり、家庭で生ごみ処理機、または生ごみ堆肥化容器(コンポスター)を使うことが可能な世帯です。

- * 一世帯につきどちらか1台
- * EMぼかしの密閉容器は対象外
- * 平成17年4月1日以降に購入したものに限りです。



(バイオ式)(乾燥式) 生ごみ堆肥化容器
機械式生ごみ処理機 (コンポスター)

詳しくはクリーン課
電話 055 949 6805

市民の声 **二藤 恵さん(奈古谷)**

生ごみ(残飯や野菜くずなど)とEMぼかしを専用容器(バケツ)に入れておくと約1~2週間で発酵し、土と混ぜることで堆肥になるので、畑にまいています。分離した水分も殺菌効果があるので、花や流し台の排水溝にまけば、無駄になりません。燃えるごみ袋に入ると重くて臭い生ごみが、臭わず有効に活用できるのでうれしいですね。専用バケツ代以外は、電気代やEMぼかし代が無料というのもお得です。



EMぼかしと生ごみを専用容器に入れるだけ



生ごみ処理機に入ると約1時間半で乾燥肥料に



市民の声 **小杉長雄さん(南江間)**

私の基本理念は「ケチ(合理的にものを見る)に徹すること」。まずは、不必要なものは手にしないで、なるべくごみを作らない努力をしています。それでも発生してしまった野菜くずや残飯は、補助金で購入した生ごみ処理機で処理し、家庭菜園の肥料として活用しています。

環境への負荷を減らし、自然の豊かな恵みを後世に残すのは、市民の務めだと思っています。

市民の声 **渡辺昌子さん(土手和田)**

我が家では小学5年生の娘がごみ出しを担当。子どもが集積所まで運ぶことや、収集作業員さんの手間を考え、ごみ袋の量を減らし、軽くするよう気をつけてます。無駄買いはせず、食材は使い切るので、冷蔵庫はいつも空っぽです。タマネギやニンジンなどの野菜くずは直接ごみ箱に捨て、調理しながら分別してます。料理も残さず食べることで、家族全員でごみの減量に協力してます。

「料理は残さず、ごみ袋は少なく軽く」が目標



まずは身近なところから
このように、ちょっとした工夫で簡単に水を切ることができ、生ごみの水分を減らすことができます。また、市民の皆さんの中にも、上に紹介するような独自の取り組みによって生ごみを減量してくれている人たちがいます。市でも、EMぼかしの無料配布や、生ごみ処理機の購入費補助などの制度で、皆さんの取り組みのお手伝いをしていますので、ぜひ活用ください。
たとえ一人ひとりの行動は小さくても、みんなが実践することで、やがて大きな成果が生まれます。伊豆の国市のごみの減量のため、まずは身近なところから始めましょう。
未来を担う子どもたちのため、豊かな環境を残しましょう。

徹底調査!! 水切り効果

家庭から生ごみを出すときに、しっかり水切りをしてから出すとどれだけ効果があるのか?市環境部職員二十四人が一週間にわたり、各家庭で水切り調査しました。家庭により生ごみの処理方法や水切りの方法は、異なりますが、ほとんどの家庭で水切りの際に、三角コーナーや水きり用のネットを使用していました。調査の結果、平均して一人一日あたり十九・四分目(約百二十グラム)の水を絞ることができました。

水切りで三百五十八トン減量

これを単純に三百六十五日で換算すると一人一年間あたり約七キロの水を減らすことができます。また一世帯(六人家族)換算では、一日あたり約百二十グラム、年間あたり約四十二キログラムを、市全体で年間あたり約三百五十八トンの燃やせるごみ(水)を減らすことができる計算になります。これからの夏場は、特に水分が多く出やすい時期です。調査で効果的だった下のような方法を、皆さんのご家庭でも試してみてください。どの方法も、水を切る時間を十分とることが、より一層の効果を生むポイントです。

上手な水切り(三角コーナーの場合)



コーナーを斜めに傾ける



コーナーに重石をのせる



上から手で押さえつける

水切り効果はどんだけ~?

ワンポイント

野菜などを調理する場合、洗う前に不要となる部分をあらかじめ取り除き、直接ごみ袋に入れると、余分な水分を吸収することもなく処理ができるよ。水切りの手間もかからず、簡単にごみの減量につながるよ。

(調査方法)

生ごみ(調理くず+残飯等)が発生した直後から、十分な水切りをして『燃やせるごみ』の指定袋へ入れるまでの差を計量しました。

(調査結果)

生ごみから絞ることができる水分の量

- 1人あたり
平均 19.4g / 日
19.4g × 365日 = 7,081g / 年間
- 1世帯(6人家族の場合)あたり
19.4g × 6人 = 116.4g / 日
116.4g × 365日 = 42,486g / 年間
- 市全体(50,586人*)あたり
19.4g × 50,586人 = 981,368g / 日
981,368g × 365日 = 358,199,320g / 年間
358トン / 年間

*人口は平成19年4月1日現在(外国人登録を除く)



なんと、1日でコップ7分目(約120g) / 6人家族の場合)の水切り効果がありました!



水切りネットを手で絞る

水切りネットを吊しておく

上手な水切り(水切りネットの場合)